老朽原発うごかすな！ニュース
第９９号
発行・老朽原発うごかすな！実行委員会
［連絡先］
090-1965-7102

５・３憲法集会の後、鴨川で アピール度満点 老朽原発うごかすな！

５月３日は、各地で憲法集会が開催されましたが、京都でも円山野音に２、１００名の参加で開催され、その後、四条通を経て、河原町を京都市役所までデモが行われました。

「反原発」の旗を掲げてデモをした私たちは、その後、鴨川で「ご苦労さん！」の交流会をしました。今後の運動などを語るうち、せっかく持参した「老朽原発うごかすな！」の横断幕を憲法集会のデモでは広げることができなかったので（旗を持っているから）、今、ここで横断幕持って鴨川沿岸を歩こうではないか！となり、実行しました。鴨川沿いは、海外から、国内からの観光客であふれ、鴨川名物の「カップル３ｍ離れ座り」は、混雑で１ｍおきに。

「おーっ！」と声があがり、アピール度満点。そこに人懐っこい海外からの可愛いお客さんが寄ってきて、満面の笑顔で横断幕の前に立ってくれました。（下写真）

関電本店から高浜原発リレーデモ（３・２１～４・２）、「関電よ 老朽原発うごかすな！高浜全国集会」（４・２９）と続き、５月２日、第３０回実行委員会では、この２つの大行動の総括が行われました。

講演会や集会等とは異なったリレーデモという企画は、自分の足で歩いて訴える行動ということ、いろんな地域を歩くから、「ここなら参加できる」という気軽さもあり、多くの方が参加され有意義な取組みだった。

４・２９高浜全国集会は、今までにない組織・団体でのご参加があり、また、初めて参加したという方も多く、「老朽原発うごかすな！」の広がりを感じた。そのような総括がなされました。そして、今後の行動について話し合われました。リレーデモや集会は実行することが目的ではありません。次の行動への行動提起です。

かつてないほど、政権の暴走が止まりません。危機感と怒りを禁じえません。私たちは連帯を求めてもっともっと大きな声を上げ、行動を提起し、実践していかなければなりません。今日も、明日も、できることは何でもやりましょう。「鴨川を横断幕で闊歩！」楽しかった！

しかし、ホント、この子たち、可愛かったな。

（京都から）

第３０回実行委員会が開かれる

５月２日、大阪の国労会館で第３０回の老朽原発うごかすな！実行委員会が開かれ、今後の取り組みについて相談が行われました。

第３０回、老朽原発うごかすな！実行委員会

老朽原発うごかすな！高浜全国集会　感想④

手を振ってくれた高浜のみなさんの勇気を分けてもらって　動ける限り頑張ろう

音海展望台からデモがスタート

４月２９日、高浜の空は曇天、今の原発を語るかのような鉛色だ。

音海展望台からのデモで抗議行動はスタートした。関電関係者以外立ち入り禁止のはずの３・４号機の関電敷地内に、人々を守ることを本分とすべき福井県警が、オレたちが犯罪者関電を守るんだと言わんばかりに、こちらの動きを見張っている。

いくらそれが上から命じられた悲しい彼らの職務だとはいえ、不信感と違和感は拭い去れない。３、４号機を前にしての各グループからのアピールを受けたのち、関電への申し入れ書が読み上げられることで、原発前での抗議行動は終了し、すぐさま次の会場、高浜町文化会館へと移動。

２時から始まった集会には３００名ほどが姿を見せていたが、ここに集まっている人のほとんどは原発にそれなりの意識を持っている人々だ。ボクはこういった集会にいつも違和感をもってしまう。何故なら、それが勉強会ならイザ知らず、なぜ、部屋に閉じこもって、身内だけの語り合いとなるのか・・・。それよりも、街頭に出て、見知らぬ人々に呼びかけ、語りかけることの方が、もっと大切なことのようにボクには思えるからだ。

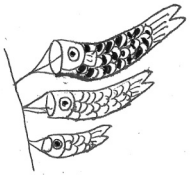
高浜町文化会館での集会

ボクは集会の間、会館の一階ロビーで個人的通信「空財布（ゲルピンパス）」の原稿起こしに時間を費やし、その後４時前からの若狭高浜駅までのデモに合流した。

当初、高浜でのデモがはじめられた頃、何事かと家々から飛び出してきた高浜の多くの住民も、最近は全くと言っていいほど姿を見せなかった【注】。本心では原発に反対しながら、狭い高浜の町で多くの住民から反原発者と見なされ、村八分的に扱われるかもしれないという恐怖心と躊躇が、彼らを家に閉じ込めてしまっているというのが、悲しいかな高浜の町がもつ現実なのだ。これは大企業と政権に抑えつけられている小さな町の人々が持ついたし方のないジレンマと言えよう。にもかかわらず、今日のデモのように、極々少数ではあるが、わざわざ家から出て顔を見せてくれる人がおり、頑張ってくださいとの意味がこめられた手を振ってくれる時、そのたびに嬉しさや有難さを感じるとともに、彼らの勇気を分けてもらえたような気がする。

彼らのためにも、そして未来ある子どもたちのためにも、老いさらばえた身ではあるが、動ける限り頑張ってゆかねば、と・・・・・。

（神戸市　平田隆）

【注】「当初、高浜でのデモが始められた頃」というのは１９７０年代に平田さんがひとりでギターをもって、高浜町を歌いながらデモ（ひとりデモ）した時のことだそうです（高浜原発１号機が稼働したのは１９７５年。その前、高浜町では、町を二分する賛否両論が渦巻いていた）。大声でがなり立てる彼の歌に、「何事か！」と家々から住民が飛び出してきたそうです。

集会後、高浜町内をデモ